

インバウンドの「変化の兆し」をいち早く
都道府県別訪日外客数と訪問率
月次指標の早期推計：5月レポート

野村亮輔（副主任研究員）
稲田義久（APIR 研究統括兼数量経済分析センター長）
松林洋一（APIR 上席研究員）
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail: nomura-r@api.or.jp

ポイント

●6月発表データのレビュー：JNTO 訪日外客数

▶JNTO 訪日外客統計によれば(図1及び表4)、5月の訪日外客総数(推計値)は**304万100人**であった。シンガポールやインド等における学校休暇や中国の大型連休があったことが影響し、**3カ月連続で300万人超の水準**となった(前月:304万2,900人)。水際対策が撤廃された前年同月と比べると+60.1%大幅増加した(前月:同+56.1%)。なお、19年同月比では+9.6%と4カ月連続のプラスとなっている。また、同月の**出国日本人数は94万1,700人**であった(前年同月比+39.4%)。なお、**19年同月比では-34.5%**と前月(同-46.7%)から**マイナス幅は縮小**。5月はゴールデンウィーク期間があったため、海外旅行需要が増加した影響が表れたようである。

▶訪日外客数のトップ5を国・地域別にみると(図2及び表4)、5月は**韓国が73万8,800人**(前年同月比+43.3%)と**最多**であった。次いで中国が54万5,400人(同+305.5%)、台湾が46万6,600人(同+53.6%)、米国が24万7,000人(同+34.7%)、香港が21万7,500人(同+40.9%)と続く。なお、5月は**インドが単月として過去最高値を更新した**。

▶目的別訪日外客総数(暫定値)をみれば(図3及び表5)、3月は**308万1,781人**となった(2019年同月比+11.7%)。うち、**観光客は277万1,105人と6カ月連続で200万人を超えており、単月として過去最高を更新した**(同+14.9%)。商用客は10万4,919人(同-35.7%)、**その他客は20万5,757人**(同+11.1%)であった。19年同月比で見ると、**観光客は6カ月連続、その他客は3カ月連続でそれぞれプラス**。一方、商用客は依然低調である。

▶観光客のTOP5を国・地域別にみれば(表5)、3月は韓国が**62万8,059人**(2019年同月比+18.2%)と**最多**であった。次いで台湾が46万8,420人(同+22.8%)、中国が35万9,995人(同-38.7%)、米国が27万2,462人(同+84.7%)、香港が22万6,880人(同+88.0%)と続く。

▶先行きの訪日外客については引き続き堅調に推移すると見込まれる。6月以降、欧米を中心に長期の夏季休暇シーズンとなることに加え、足下で円安が続いていることもあり、訪日需要が一層高まると考えられる。一方で、訪日外客が一部の地域に集中する結果、オーバーツーリズムが深刻化しつつある。今後、**地域の観光資源を一層磨き上げ、訪日外客へ訴求することで、広域観光を促進していくかが重要**となろう。

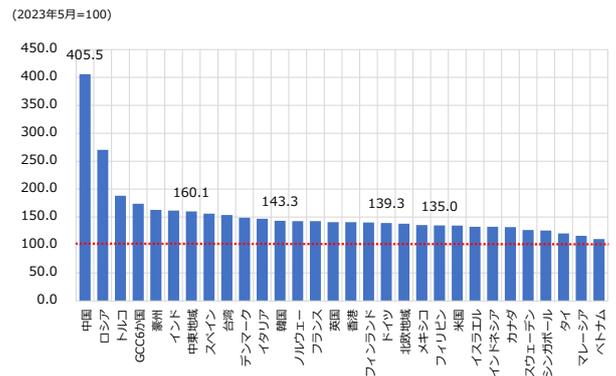
図1 訪日外客数及び出国日本人数の推移



出所:日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成

注) 2022年まで確定値、23年、24年1-3月は暫定値、24年4-5月は推計値

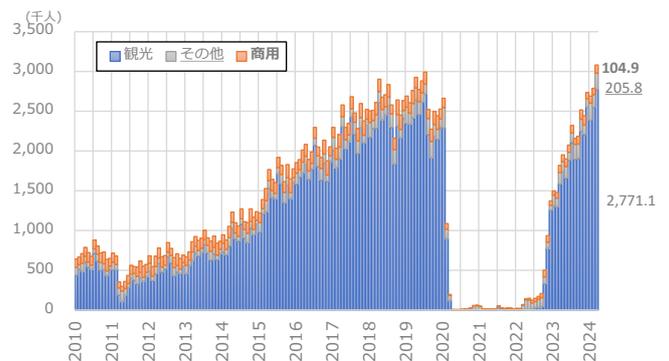
図2 国・地域別前年同月との水準比較：24年5月



出所:日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成。

注)なお、TOP5の国・地域は値を表示している。

図3 目的別訪日外客数推移



出所:日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成

注) 目的別訪日外客数については訪日外客数(推計値)から2カ月遅れて発表される。「観光客」とは、短期滞在の入国者から「商用客」を引いた入国外国人で、親族友人訪問を含んでいる。「その他客」とは、観光、商用目的を除く入国外国人で、留学、研修、外交・公用などが含まれる。

*なお、政府が水際対策を撤廃してから1年が経過したため、本稿では5月以降のデータについては伸び率を前年同月と比較している。それ以前の月次統計については19年同月比としている。

トピックス 1

● 5月関西の財貨・サービス貿易及び4月のサービス産業動向

▶ **関西 5月の輸出額は前年同月比+10.4%**となった(図4)。好調な対中国輸出に加え、対欧米輸出が増加に転じたことで、**輸出は2カ月ぶりに増加**(前月：同-1.9%)。また、**輸入額は同+8.1%**と**2カ月連続の増加**となった(前月：同+1.5%)。輸出の伸びが輸入のそれを上回った結果、**関西の貿易収支は+1,093億円**と**4カ月連続の黒字**となり、**黒字幅は同+62.3%拡大**した(前月：同-23.0%)。

▶ 対中貿易動向をみると(図5)、**関西 5月の対中輸出は前年同月比+13.3%**と**3カ月連続で増加**し、前月(同+5.5%)から増加幅は拡大した。輸出増に寄与したのは半導体等製造装置や非鉄金属等であった。また、**対中輸入は同+11.7%**と**2カ月連続の増加**(前月：同+5.8%)。輸入増に寄与したのは通信機や衣類及び同附属品等であった。

▶ **5月の関西国際空港(以下、関空)への訪日外客数は79万8,812人**となり、**過去最高値を更新**した(前月：77万2,860人)(図6)。前年同月比では+59.4%と大幅増加した(前月：同+63.8%)。全国と同様に外国人入国者数は好調に推移している。また、同月の日本人出国者数は17万5,678人であった(同+54.7%)。なお、2019年同月比では-38.0%と、前月(同-53.2%)から減少幅は縮小。**外国人入国者数に比して日本人出国者数は依然低調**である。

▶ **4月のサービス業の活動は一進一退で推移している**(図7)。サービス業の生産活動を示す**第3次産業活動指数**(季節調整済み：2015年平均=100)をみれば、4月は101.9で前月比+1.9%上昇し、**2カ月ぶりのプラス**となった(前月：同-2.3%)。4月を1-3月平均と比較すれば、+1.0%上昇した(1-3月期：前期比-0.1%)。また、**対面型サービス業指数***は95.8で同+5.9%上昇し、**2カ月ぶりのプラス**(前月：同-8.3%)。うち、運輸業(同+11.0%、2カ月ぶり)とその他の生活関連サービス業(同+12.4%、2カ月ぶり)が上昇に寄与した。結果、4月の対面型サービス業指数の1-3月平均比は+1.0%上昇した(1-3月期：同-1.6%)。

▶ **観光関連指数****(2015年平均=100)は、90.4と前月比+0.4%小幅上昇し、**2カ月ぶりのプラス**(前月：同-6.9%)。うち、**旅行業**(同+50.5%、2カ月ぶり)、**旅客運送業**(同+1.6%、2カ月ぶり)等が上昇に寄与した。4月の観光関連指数を1-3月平均と比較すると、-3.0%低下した(1-3月期：同+1.4%)。

*対面型サービス業は、運輸業、宿泊業、飲食店、飲食サービス業、その他の生活関連サービス業及び娯楽業を指す。

**観光関連指数は第3次産業活動指数のうち、観光庁「旅行・観光サテライト勘定」の分類に対応する、鉄道旅客運送業、道路旅客運送業、水運旅客運送業、航空旅客運送業、旅客運送業、その他のレンタル、自動車賃貸業、宿泊業、飲食店、飲食サービス業、旅行業、映画館、劇場・興行団の各指数の加重平均。

図4 関西 対世界貿易の推移

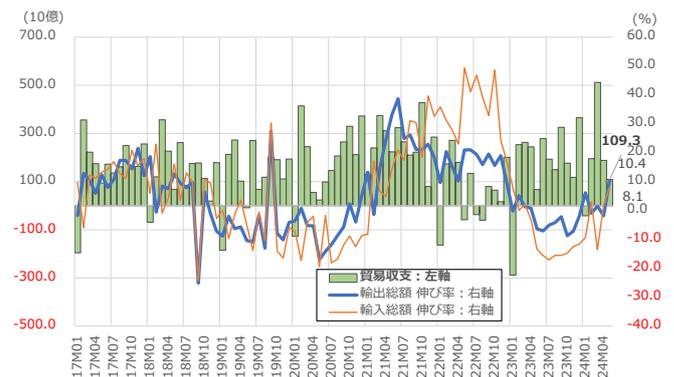
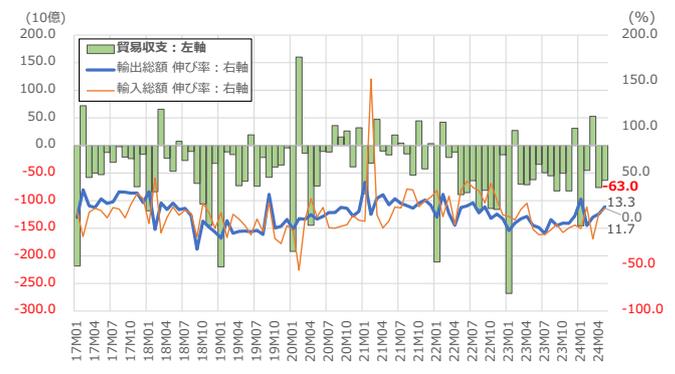
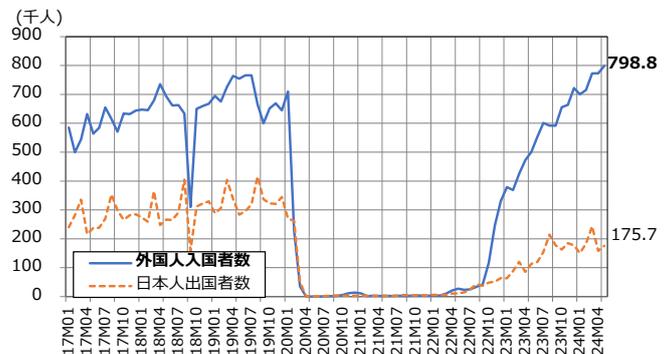


図5 関西 対中貿易の推移



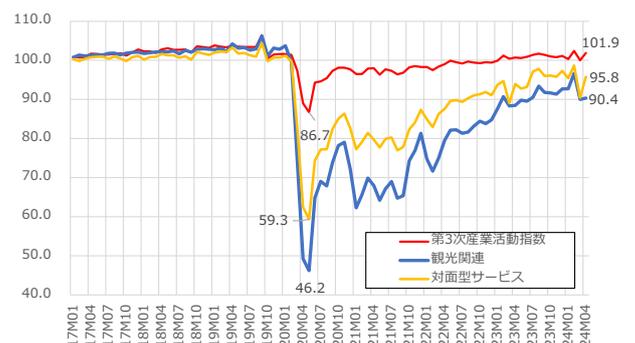
出所：「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」より筆者作成

図6 関西国際空港 訪日外客入国者数推移



出所：出入国管理統計より筆者作成。2024年5月値は速報値

図7 観光関連 対面型サービス 第3次産業：2015年=100



出所：経済産業省「第3次産業活動指数」より筆者作成

トピックス 2

●3月延べ宿泊者数の動向：関西2府8県

▶観光庁によれば、3月の関西2府8県の延べ宿泊者数(全体)は11,659.5千人泊であった(表1)。2019年同月比では+7.9%と7カ月連続で増加した(前月：同+7.9%)。

▶日本人延べ宿泊者数は8,039.3千人泊となった。2019年同月比+0.1%と7カ月連続の増加だが、増加幅は小幅にとどまった(前月：同+5.3%)(表1及び図8)。府県別に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府2,735.3千人泊、京都府1,479.2千人泊、兵庫県1,428.1千人泊、三重県724.5千人泊、和歌山県396.0千人泊、滋賀県357.6千人泊、福井県282.3千人泊、鳥取県229.0千人泊、徳島県207.1千人泊、奈良県200.3千人泊であった。2019年同月比でみると、兵庫県(同+18.6%)、大阪府(同+4.1%)、奈良県(同+8.1%)や鳥取県(同+5.7%)はプラスとなった。

▶外国人延べ宿泊者数は3,602.2千人泊となった。2019年同月比+30.3%と8カ月連続のプラス(表1及び図9)。増加幅は前月(同+14.5%)から拡大し、7カ月連続で2桁の伸びが続いている。日本人宿泊者に比して外国人宿泊者は堅調に推移している。府県別に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府1,857.9千人泊、京都府1,427.7千人泊、兵庫県130.9千人泊、滋賀県57.2千人泊、和歌山県56.9千人泊、奈良県35.7千人泊、徳島県19.6千人泊、三重県17.3千人泊、鳥取県10.3千人泊、福井県6.7千人泊であった。なお、徳島県の外国人宿泊者数は単月として過去最高を更新した。2019年同月比でみると、京都府(同+44.4%)、大阪府(同+28.1%)がいずれも9カ月連続で増加。また、滋賀県(同+39.6%)、和歌山県(同+1.0%)、福井県(同+12.6%)や徳島県(同+63.3%)でもプラスとなった。

▶関西2府8県延べ宿泊者を居住地別でみると(図10)、県内の延べ宿泊者数は1,450.2千人泊、県外は9,869.9千人泊であった。2019年同月比では県内は同+8.8%と30カ月連続のプラスとなり、増加幅は前月(同+6.6%)から拡大。また、県外(含む外国人)は同+10.4%と、7カ月連続のプラス(前月：同+10.0%)。

図8 府県別日本人延べ宿泊者数 推移

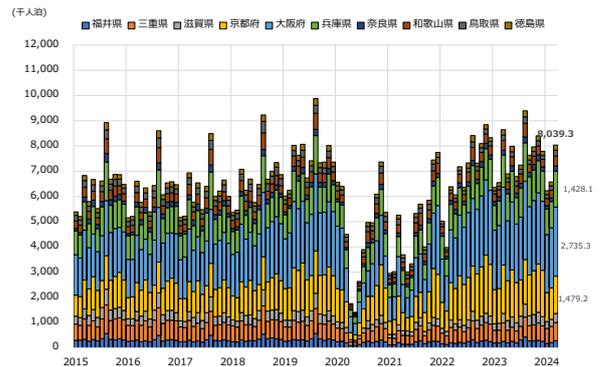


図9 府県別外国人延べ宿泊者数の推移

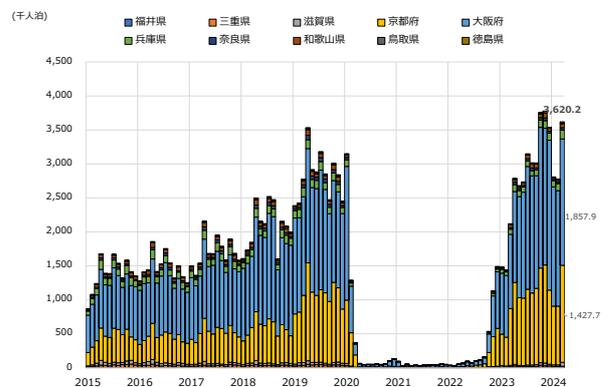
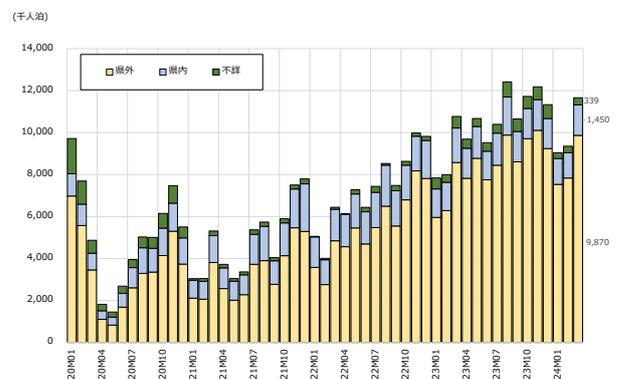


図10 関西 居住地別延べ宿泊者比率の推移



注) 県外の宿泊者には外国人宿泊者も含まれる。

表1 関西 延べ宿泊者数伸び率：3月

2024年3月	総数			日本人			外国人		
	延べ宿泊者数: (千人泊)	19年比伸び率: 当月(%)	19年比伸び率: 前月(%)	延べ宿泊者数: (千人泊)	19年比伸び率: 当月(%)	19年比伸び率: 前月(%)	延べ宿泊者数: (千人泊)	19年比伸び率: 当月(%)	19年比伸び率: 前月(%)
福井県	288.9	-13.8	-26.9	282.3	-14.2	-26.2	6.7	12.6	-47.0
三重県	741.8	-6.7	14.7	724.5	-5.2	18.0	17.3	-44.9	-47.6
滋賀県	414.8	-2.6	0.4	357.6	-7.1	6.1	57.2	39.6	-38.8
京都府	2,906.9	8.3	3.7	1,479.2	-12.8	-3.6	1,427.7	44.4	16.2
大阪府	4,593.2	12.6	14.7	2,735.3	4.1	9.7	1,857.9	28.1	22.5
兵庫県	1,559.0	16.4	4.5	1,428.1	18.6	6.8	130.9	-2.8	-14.3
奈良県	236.0	4.8	14.8	200.3	8.1	29.4	35.7	-10.6	-36.8
和歌山県	452.9	-3.7	-0.5	396.0	-4.3	2.8	56.9	1.0	-26.5
鳥取県	239.3	2.2	0.9	229.0	5.7	6.2	10.3	-41.1	-46.3
徳島県	226.7	3.4	4.9	207.1	-0.1	5.2	19.6	63.3	-0.5
関西2府4県	10,162.7	10.2	8.9	6,596.4	1.3	5.7	3,566.3	31.6	16.0
関西2府8県	11,659.5	7.9	7.9	8,039.3	0.1	5.3	3,620.2	30.3	14.5
全国	55,110.1	7.7	9.9	42,127.7	1.2	6.0	12,982.4	36.4	24.2

出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」(図8～10及び表1)より筆者作成

トピックス 3

● 2024年1-3月期訪日外国人訪問率と消費単価：関西

▶ 2024年1-3月期における関西各府県の訪問率をみると(図11)、大阪府36.2%が最も高く、次いで京都府27.3%、奈良県7.7%、兵庫県4.9%、三重県0.8%、和歌山県0.8%、滋賀県0.4%、鳥取県0.2%、福井県0.1%、徳島県0.1%と続く。2019年同期と比較すると、京都府(+4.1%ポイント)、大阪府(+1.1%ポイント)、三重県(+0.2%ポイント)や和歌山県(+0.1%ポイント)はいずれも上昇。一方、奈良県(-1.1%ポイント)、兵庫県(-0.7%ポイント)、鳥取県(-0.3%ポイント)、滋賀県(-0.2%ポイント)、福井県(-0.1%ポイント)、徳島県(-0.1%ポイント)ではそれぞれ低下した。

▶ 当該期間の各府県の訪問率に訪日外客数を乗じて推計した関西における訪日外客数を要約しておこう。推計された2024年1-3月期の訪問者数を降順にみれば(表2)、**大阪府**が309万7,820人(2019年同期比+9.7%)と**最も多く**、次いで京都府が233万8,336人(同+25.1%)、奈良県が66万1,485人(同-6.8%)、兵庫県が42万358人(同-7.1%)、三重県が6万8,177人(同+32.0%)、和歌山県が6万5,712人(同+20.7%)、滋賀県が3万6,288人(同-25.9%)、鳥取県が1万6,544人(同-56.6%)、福井県が1万1,708人(同-30.1%)、徳島県が1万1,203人(同-36.5%)と続く。**19年同期比では大阪府、京都府、和歌山県と三重県がプラス**となった。

▶ 表3は2024年1-3月期の関西における訪日外国人消費単価(旅行者1人1回当たりの旅行消費金額)を示している。**関西2府4県では19年同期比+13.2%増加した**。費目別にみれば、**娯楽等サービス費(同+75.3%)や宿泊費(同+73.3%)が大幅増加した一方、買物代は同-16.6%減少した**。訪日外客の消費行動はモノ消費からコト消費へ着実に移りつつある。

▶ なお、関西2府4県の訪日外客数(表2)と消費単価(表3)を用いて、2024年1-3月期の関西における消費額を推計した。結果、**訪日外客消費額は3,827億9,198万円**となった。**19年同期比では+32.2%と、コロナ禍前の水準を大きく上回った**。なお、同期の全国の消費額は1兆7,700億円、同+53.7%となっており、**関西は全国の伸びを下回った**。

*全国の費目別消費単価及び消費額については本レポートNo.58を参照。

図11 訪日外国人訪問率の推移：関西2府8県

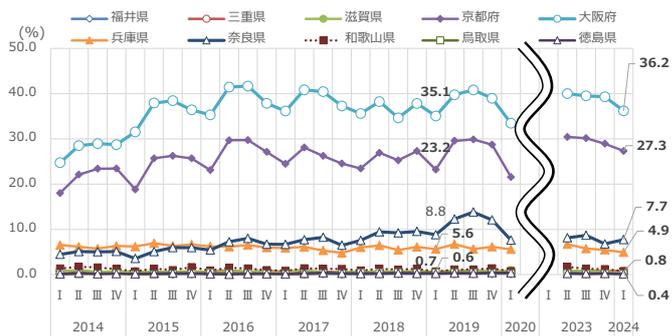


表2 訪日外客の訪問率と人数：関西2府8県

府県ベース	19Q1		24Q1		19年比伸び率
	訪問率	人数	訪問率	人数	
福井県	0.2	0.1	16,744	11,708	-30.1
三重県	0.6	0.8	51,641	68,177	32.0
滋賀県	0.6	0.4	48,943	36,288	-25.9
京都府	23.2	27.3	1,869,649	2,338,366	25.1
大阪府	35.1	36.2	2,823,484	3,097,820	9.7
兵庫県	5.6	4.9	452,350	420,358	-7.1
奈良県	8.8	7.7	710,119	661,485	-6.8
和歌山県	0.7	0.8	54,460	65,712	20.7
鳥取県	0.5	0.2	38,135	16,544	-56.6
徳島県	0.2	0.1	17,638	11,203	-36.5

運輸局ベース	19Q1		24Q1		19年比伸び率
	訪問率	人数	訪問率	人数	
北海道	11.2	9.4	902,686	808,477	-10.4
関東	47.6	53.6	3,830,861	4,588,930	19.8
中部	11.8	10.2	949,672	870,030	-8.4
近畿	37.0	39.1	2,976,611	3,343,757	12.3
九州	11.8	11.9	951,886	1,022,328	7.4

出所:JNTO『訪日外客統計』及び観光庁『訪日外国人消費動向調査』より推計。

表3 費目別訪日外国人消費単価の比較：関西2府4県

	消費単価	費目別						
		宿泊費	飲食費	交通費	娯楽等サービス費	買物代	その他	
2019年1-3月期 (万円/人)	滋賀県	3.5	0.6	1.3	0.1	0.1	0.9	0.0
	京都府	3.2	0.9	0.9	0.1	0.1	0.9	0.0
	大阪府	7.5	1.3	1.3	0.2	0.3	3.5	0.0
	兵庫県	2.3	0.6	0.8	0.0	0.1	0.5	0.0
	奈良県	0.8	0.1	0.2	0.0	0.0	0.2	0.0
	和歌山県	3.1	0.9	0.5	0.0	0.0	0.7	0.0
2府4県	3.4	0.7	0.8	0.1	0.1	1.1	0.0	
2024年1-3月期 (万円/人)	滋賀県	3.1	1.1	1.1	0.0	0.1	0.4	0.0
	京都府	4.3	1.7	1.1	0.1	0.2	1.0	0.0
	大阪府	8.3	2.4	1.8	0.2	0.5	3.1	0.0
	兵庫県	3.0	1.0	1.0	0.1	0.1	0.7	0.0
	奈良県	0.9	0.2	0.3	0.0	0.1	0.2	0.0
	和歌山県	3.4	1.4	0.8	0.1	0.1	0.3	0.0
2府4県	3.8	1.3	1.0	0.1	0.2	0.9	0.0	
19年同期比(%)	滋賀県	-9.2	104.2	-12.9	-53.8	-26.4	-59.0	-
	京都府	34.8	86.8	26.8	56.6	86.0	12.4	-
	大阪府	11.3	78.6	40.1	26.7	89.2	-12.4	-
	兵庫県	27.0	47.5	28.5	73.1	59.7	33.9	-
	奈良県	7.4	91.8	62.5	119.5	256.7	-15.8	-
	和歌山県	12.1	50.7	59.2	111.8	226.6	-52.9	-
2府4県	13.2	73.3	24.8	33.9	75.3	-16.6	-	

訪日外客消費額	19年1-3月期 (万円)	24年1-3月期 (万円)	19年同期比 (%)
関西2府4県	28,957,052	38,279,198	32.2
全国	115,170,000	177,000,000	53.7

(注)全目的ベース。2019年は確報、24年1-3月期は速報(上図も同様)。消費単価にはパッケージ参加費が含まれる。
出所:観光庁『訪日外国人消費動向調査』より作成。

表4 2024年5月 訪日外客数 (JNTO 推計値) (前年同月比)

国・地域	総数 Total			総数 Total		
	2023年	2024年	伸率(%)	2023年	2024年	伸率(%)
	5月	5月		1-5月	1-5月	
総数	1,899,176	3,040,100	60.1	8,638,955	14,641,500	69.5
総数(中国除く)	1,764,666	2,494,700	41.4	8,252,760	12,234,400	48.2
韓国	515,717	738,800	43.3	2,583,387	3,738,700	44.7
中国	134,510	545,400	305.5	386,195	2,407,100	523.3
台湾	303,343	466,000	53.6	1,381,642	2,404,700	74.0
香港	154,393	217,500	40.9	723,437	1,025,600	41.8
タイ	80,728	97,400	20.7	446,448	563,700	26.3
シンガポール	49,746	62,700	26.0	198,135	241,100	21.7
マレーシア	34,004	39,600	16.5	172,243	219,800	27.6
インドネシア	31,120	41,300	32.7	162,380	220,800	36.0
フィリピン	49,939	67,400	35.0	222,915	336,700	51.0
ベトナム	45,768	50,600	10.6	262,025	284,500	8.6
インド	17,992	29,100	61.7	65,236	102,100	56.5
豪州	40,816	66,500	62.9	232,361	400,200	72.2
米国	183,408	247,000	34.7	745,402	1,046,500	40.4
カナダ	42,285	55,800	32.0	153,250	231,200	50.9
メキシコ	8,465	11,500	35.9	28,153	53,300	89.3
英国	27,739	39,100	41.0	129,744	189,600	46.1
フランス	26,754	38,200	42.8	104,420	161,200	54.4
ドイツ	23,118	32,200	39.3	93,060	141,000	51.5
イタリア	11,828	17,400	47.1	49,116	81,100	65.1
スペイン	8,581	13,400	56.2	30,837	53,000	71.9
ロシア	2,960	8,000	170.3	13,801	35,400	156.5
北欧地域	8,607	11,900	38.3	41,677	59,300	42.3
中東地域	8,746	14,000	60.1	42,822	61,200	42.9
その他	88,609	129,300	45.9	370,269	583,700	57.6

表5 2024年3月 目的別訪日外客数 (JNTO 暫定値) (対2019年比)

国・地域	総数 Total			観光客 Tourism			商用客 Business			その他客 Others		
	2019年	2024年	伸率(%)	2019年	2024年	伸率(%)	2019年	2024年	伸率(%)	2019年	2024年	伸率(%)
	3月	3月		3月	3月		3月	3月		3月		
総数	2,760,136	3,081,781	11.7	2,411,650	2,771,105	14.9	163,242	104,919	-35.7	185,244	205,757	11.1
韓国	585,586	663,102	13.2	531,398	628,059	18.2	29,901	16,079	-46.2	24,287	18,964	-21.9
中国	691,279	452,525	-34.5	587,480	359,995	-38.7	31,393	21,302	-32.1	72,406	71,228	-1.6
台湾	402,433	484,454	20.4	381,537	468,420	22.8	11,196	8,266	-26.2	9,700	7,768	-19.9
香港	171,430	231,373	35.0	166,108	226,880	36.6	3,491	2,138	-38.8	1,831	2,355	28.6
タイ	147,443	131,749	-10.6	140,219	126,021	-10.1	3,718	2,589	-30.4	3,506	3,139	-10.5
シンガポール	43,687	61,047	39.7	39,575	58,360	47.5	3,444	2,179	-36.7	668	508	-24.0
マレーシア	50,615	41,953	-17.1	45,887	39,015	-15.0	2,508	1,326	-47.1	2,220	1,612	-27.4
インドネシア	39,609	37,448	-5.5	33,105	28,069	-15.2	2,506	1,085	-56.7	3,998	8,294	107.5
フィリピン	48,277	78,821	63.3	41,263	68,141	65.1	2,492	5,571	123.6	4,522	5,109	13.0
ベトナム	47,881	67,475	40.9	20,138	20,435	1.5	3,593	3,219	-10.4	24,150	43,821	81.5
インド	17,752	27,206	53.3	9,081	19,533	115.1	5,703	4,348	-23.8	2,968	3,325	12.0
豪州	44,175	82,781	87.4	39,476	79,903	102.4	3,177	1,947	-38.7	1,522	931	-38.8
米国	176,564	290,075	64.3	147,532	272,462	84.7	21,325	11,492	-46.1	7,707	6,121	-20.6
カナダ	37,959	57,779	52.2	34,527	55,826	61.7	2,187	1,062	-51.4	1,245	891	-28.4
メキシコ	5,740	15,472	169.5	4,888	14,810	203.0	541	308	-43.1	311	354	13.8
英国	38,610	56,450	46.2	31,516	51,821	64.4	5,248	3,112	-40.7	1,846	1,517	-17.8
フランス	29,408	34,685	17.9	22,799	30,265	32.7	4,375	2,388	-45.4	2,234	2,032	-9.0
ドイツ	28,659	47,553	65.9	21,715	43,579	100.7	5,438	2,665	-51.0	1,506	1,309	-13.1
イタリア	14,956	24,394	63.1	11,758	22,168	88.5	2,463	1,506	-38.9	735	720	-2.0
ロシア	11,701	10,579	-9.6	9,106	9,403	3.3	1,923	551	-71.3	672	625	-7.0
スペイン	8,916	16,797	88.4	7,364	15,732	113.6	1,039	633	-39.1	513	432	-15.8
中東地域	11,726	11,876	1.3	9,865	10,590	7.3	1,265	847	-33.0	596	439	-26.3
その他	105,730	156,187	47.7	75,313	121,618	61.5	14,316	10,306	-28.0	16,101	24,263	50.7

注) 目的別訪日外客数の定義については、図3注参照。
出所: 日本政府観光局(JNTO)、2024年6月19日付より筆者加工